

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報) / 畑中 伸夫

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

高度専門職業人は、常に学び続けることが必要である。表現は色々な言葉で可能であろうが、究極的には「日々の教育実践を振り返り、不本意な事柄をいかに克服するか研究と実践を継続する」ことに尽きると考える。教育実践の主要な要素は授業であるとする。よって、「教科の専門科目」を主として担当する者として、提起されている点について答える。

①授業内容に関しては、担当科目はいわゆる「工学系」の科目であり、自身がその道を歩んできたことから、工学部で行われている授業内容をそのまま展開することが一番安易である。しかし、技術科コースの学生・技術科の教諭になることから、「工学的センス」は必要であると考えられるが、工学の内容そのものを深く探究することは適切ではない。コース内での科目の変更を進める中で、それにふさわしい内容を再構築して展開する。

②教科書・黒板・ノートの授業から、近年の教育工学を活用した授業方法の導入をすすめる。工学的な問題では実際に起こる「物理現象」をいかにリアルに理解するかが授業の成否を決定する。多くの優れた教材が開発されており、自らの研究・開発も含め先進的な教材を取り入れる。

③「工学系」科目においては、理論学習とその演習問題で試験を行い成績評価をすることが最も安易である。しかし、上述の授業内容ともかかわるが、実践的・実技的内容を授業に取り入れ、その取り組みに対する意欲や創意工夫などを積極的に成績評価に反映させる方法を検討する。

#### 2. 点検・評価

①授業内容に関しては、中間報告にも記述したが年間を通して「工学部」の授業から、教員の資質能力を向上させる内容に変更した。特に、担当授業科目の内容の中に含まれる小中学校の教材に係る部分を重視して指導するとともに、小中学校における教育内容が学問体系の中で占める位置を明確に認識させるよう授業を組み立て直した。

②授業方法については、ICT技術を活用している。小中学校の現場においてもICT技術の活用が進められようとしていることから、自ら見本となるよう教材開発を進めた。

③授業内容に実践的課題を多く取り入れ、当該課題に取り組む姿勢や意欲を評価に含めた。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①本コースの特質である「ものづくり」の楽しさを体得させるため担当する全ての科目で取り組む。
- ②4年生担任として、全員「正式採用」を目指し援助する。教職実践演習とのかかわりもあるが、クラス単位の就職ゼミ等も実施してみたい。
- ③学生と日常的な接触を意図的に追及する。
- ④本コース(技工情)では、第3学年から卒業研究の仮配属を行い、コースの教員全員がほぼ週に一度ゼミを行っている。指導教員との連携を強め、綿密な学生支援を心がける。

#### 2. 点検・評価

- ①担当する授業科目において、ものづくり教育を推進した。15回の授業の内、概ね10回は基本的な知識を教授する授業とし、5回については教材開発につながるものづくり教育を実施した。学生も積極的に取り組み、「楽しい」授業になった。材料費の捻出が課題である。
- ②4年担任として、全員「正式採用」が決定した。最後の1名は大阪府の二次募集に合格した。また、本校赴任以来、卒業研究・特別研究を担当した学生は全て「正式採用」されており、進路指導を重視してきた成果であると考え。
- ③担任の学生との日常的な接触に努力した。また、配属されている4年卒業研究、3年ゼミ学生とは、日常的に接触し支援を行った。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①専門分野である「塑性加工」に関する研究を継続して進める。研究成果を、学会等で講演する。
- ②科学研究費による研究を推進し、成果を出す。
- ③教育大学の教員として、中学校:技術科教員、高等学校:工業科・情報科教員の具備すべき知識・技術について研究を進める。

#### 2. 点検・評価

- ①および②専門分野の研究に関しては、中間報告後も順調に進行している。
  - 1)軽金属中国四国支部講演会(7月)において自ら発表を行うとともに指導学生にも発表させ、研究・開発奨励賞および優秀発表賞が授与された。
  - 2)軽金属学会秋季講演会(11月)における講演に対して、軽金属溶接協会から「論文執筆依頼」があり、取り組み中である。
  - 3)産業技術教育学会四国支部講演会(12月:学生含め3本)、産業技術教育学会情報分科会(1月)において講演を行った。
- ③中学校・高等学校教員の具備すべき知識・技術につき産業技術教育学会や技術教育研究会(民間教育研究団体)に積極的に参加し研究を進めた。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①全学的な学校改革の取り組みに積極的に参加する.
- ②2年目の大学院入試委員として、本学の運営に貢献する.
- ③高島地区過半数代表として、教職員の生活や健康の向上に努力する.

### 2. 点検・評価

- ①全学的に提起される諸取り組みに積極的に参加した.
- ②大学院入試委員は、副委員長として試験班を統括した.
- ③高島地区過半数代表として、教職員の生活や健康の向上に努力した.

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属学校教員(特に中学校技術科教員)と連携を深める. その中で、教材・教具の改善・開発を教育実践フィールド研究や卒業研究を通して取り組む.
- ②産学・産官学連携の研究・製品開発に取り組む. また、地域から依頼があれば「出前授業」等を積極的に実施する.

### 2. 点検・評価

- ①徳島県教育委員会が主催の「技術・家庭科研修講座Ⅱ」の講師を務めた.
- ②教員免許状更新講習の講師を務めた.
- ③附属学校で行われる研究会や教育実習中の研究授業・授業研究に参加し、議論に加わるとともに、学生の指導をおこなった.
- ④3年生で配属されているゼミ学生2名の教育実習中に附属小学校を訪れ、激励するとともに気づいた点について指導した.

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

--